

## 2012 スーパー耐久 Rd,4

**吉田 広樹**  
〈岡山国際サーキット〉

前回のレースから3ヶ月という長いインターバルを挟んで第4戦が岡山国際サーキットで開催されました。前回の菅生レースの際にクラッシュしてしまった車両は大きな損傷でしたが、チームがこの3ヶ月間懸命に修復して貰ったおかげで完璧な状態でサーキットに搬入されていました。チーム、関係者の皆様、本当にありがとうございます。そしてマシンの走行チェックもあったため今回は木曜日から岡山に入りフリー走行を開始します。



### 8月23,24日 フリー走行

フリー走行初日の水曜日から天候にも恵まれ真夏日の中、走行開始しました。まずはチームメイトである小泉選手、堀田選手に周回を重ねてもらいます。午後に入り私も走行開始しましたがマシンの状況もまったく問題なく、中身も概観も完全にマシンが修復してもらえたことを実感しました。チームの皆さん、修復にご協力いただいた関係者の皆さん、本当にありがとうございました。フリー走行2日目に入り、S耐久の公式フリー走行に入ります。この日からほとんどのチームが走行を開始するため周りのチームとの比較や自分たちのチームのポジションが確認できます。まずは昨日と同じで小泉さん、堀田さんに走行してもらい1本目の走行はクラス4番手で終わります。2本目には予選シュミレーションのため走り

初めから私がNEWタイヤを使わせてもらい、アタックを開始しました。そして計測2周目に1'42,073というタイムでクラストップにつなめます。その後は堀田選手に交代し、決勝を見据えたロングランを行ってもらいました。最終的にこのタイムは更新されなかったため2本目はトップタイムで終わることが出来ましたが、もっとタイムをあげる必要があり、しっかりとデータを確認して翌日の予選に備えます。

### 8月25日 公式予選 DRY

**ST-3クラス→5位/10台中**



今回はF3レースと併催ということで土曜日に予選、日曜日に決勝という2DAY方式で行われました。この日は予選だけのスケジュールでいつも通りA,Bドライバーの合算タイムでスタートポジションが決まります。まずはAドライバーの小泉選手がアタックし1'42,536というタイムで6番手に。続くBドライバーの予選では私がアタックさせてもらい、計測2周目に自己ベストを更新し1'41,373というタイムで3番手につなめます。最終的に2人のタイムを合算しレースはクラス5番手からスタートすることになりました。

〈NO.1〉

## 2012 スーパー耐久 Rd.4

吉田 広樹

〈岡山国際サーキット〉

8月26日 決勝レース DRY

ST-3クラス→3位/10台中

日曜日に入り朝から30分のフリー走行を経て、1番暑い時間である13時20分からレースがスタートします。

朝のフリー走行ではドライバーの交代の練習を行いながら、燃料満タン状態の周回を重ねたタイヤで決勝ラップのシュミレーションを行います。午後に入り天候もよく、予想以上の気温、路面温度の中フォーメーションラップがスタートしました。スタートドライバーは小泉選手に担当してもらうことになり、2番目に私、最終ステントを堀田選手という順番で繋ぐことになりました。レースがスタートしてまもなくバックストレートで多重クラッシュが発生。セーフティカーが入る展開となりました。小泉選手はこのクラッシュをうまく回避しポジションをキープします。このセーフティカーは5周ほど続いたのですが、この間に何チームかが義務である2回のピットストップのうちの1回を済ませる作戦に出ます。私たち35号車はピットインを行わずステアアウトした結果、クラス2番手で再スタートすることとなりました。小泉選手は3番手の選手の攻撃に屈することなく2番手をキープしたまま約1時間、34周を周回し2番手のまま私へとドライバー交代することになりました。1周目のセーフティカーの際にピットストップを済ませたマシンとは作戦が違うため中々コース上で出くわすことがありませんが、同じ作戦をとっていたボールのマシンを先ずはオーバーテイクしなければなりません。徐々にそのマシンに追いつきステント序盤にオーバーテイク、クラストップに躍り出ま

す。そこからは残りの周回数を走りきれようタイヤマネジメントを考えながらも、作戦が違うマシンに対してプッシュを続けます。そして約1時間40分、52周走ったところで堀田選手にドライバー交代を行いました。残りの周回数も少なかったことから堀田選手にはタイヤ交換をせずに走りきって貰うこととなります。作戦が違うマシンがピットストップの際にトップに入れ替わっていたので2番手を走行して貰っていたのですが、後ろから3番手のマシンが徐々に近づいてきます。堀田選手はタイヤ交換を行わなかったため、ユーズドタイヤで後ろからのプッシュに耐えてくれていましたが、残り3周くらいで3番手に後退してしまいチェッカーとなりました。

今回の3位で35号車は初の表彰台となります。もちろんもっと上を目指していますが、前回のクラッシュからここまでの成績を残すために堀田選手や小泉選手、チームや関係者が行ってきた経過を考えると素直に嬉しです。今回の自分の走りを振り返っても課題は沢山あります。チャンスは残り2レースしかありませんが、その2レースでしっかりと成長して優勝したいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

TECHNO FIRST

吉田 広樹



〈NO.2〉